

■ 関大ボクシング部創設 90 周年式典で、同部 OB の現役世界王者と珍対決!? ■ WBC 世界ライトフライ級王者 寺地拳四朗選手とにらめっこ

【日 時】2月11日（火・祝）17:00~19:00 【場 所】大阪新阪急ホテル2階「花の間」

関西大学体育会ボクシング部 OB 会では、ボクシング拳四朗関大後援会との共催で、同部創設 90 周年記念式典及び寺地拳四朗選手 世界チャンピオン V7 祝勝会を、2月11日（火・祝）に大阪新阪急ホテルにて開催します。

本件の ポイント

- ・数々の日本チャンピオンを輩出した関西大学ボクシング部が創設 90 周年を迎えた
- ・同部 OB で WBC 世界ライトフライ級 現役チャンピオンの寺地拳四朗選手の V7 を祝う
- ・フェイスオフが苦手な拳四朗選手のトレーニングと称して、参加者とのにらめっこ対決も実施

関西大学体育会ボクシング部は 1929 年に創設され、これまで数々の日本チャンピオンらを輩出してきました。2014 年卒業の寺地拳四朗さんは同部 OB の一人で、現在 WBC 世界ライトフライ級王者（7 度防衛）として活躍中。その同期生である坂晃典さんも、日本フェザー級王座と日本スーパーフェザー級王座の 2 階級制覇を達成するなど、第一線で輝きを放っています。このたび、偉大な歴史を刻み続ける同部の創設 90 周年という記念すべき佳節ならびに、寺地拳四朗さんの 7 度目の王座防衛という偉業を祝います。

■ 笑顔がトレードマークの世界王者はにらめっこが苦手!?

2019 年 7 月 11 日、拳四朗チャンピオン 6 度目の防衛戦の前日計量での出来事。拳四朗選手と挑戦者ジョナサン・タコニン選手は無事に計量をパスし、その後行われる恒例のフェイスオフで、両選手が至近距離で向かい合ったところ……。タコニン選手と目が合った瞬間に笑い出してしまった拳四朗選手。それを見たタコニン選手も満面の笑顔で対応し、すぐに握手をしてしまいました。マスコミが期待する緊張感のあるフェイスオフにはならず、いつも和やかな空気を作り出してしまう拳四朗選手は、「世界一優しいチャンプ」なのです。

そこで、どのくらい「にらめっこ」が苦手なのかを検証するとともに、どうしたらフェイスオフがしっかりできるようになるかを探るため、祝勝会のプログラムの一つとして、参加者との「にらめっこ」トレーニングを実施します。対戦者は、小学生、女性会員、関大役員等を想定。もちろん、チャンピオンに勝利した参加者には、勝利者賞の贈呈を予定しています。

<ボクシング部創設 90 周年記念式典および寺地拳四朗選手 V7 祝勝会の概要>

【日 時】2月11日（火・祝）17:00 ~ 19:00

【場 所】大阪新阪急ホテル2階「花の間」（大阪市北区芝田 1-1-35）

【主 催】関西大学体育会ボクシング部OB会、ボクシング拳四朗関大後援会

【参加資格】ボクシング拳四朗関大後援会会員に限る ※事前申込・参加費要

【主なプログラム】

- 寺地拳四朗チャンピオンと参加者による「にらめっこ対決」 ほか



※取材をご希望の方は、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

取材に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：寺崎、浦田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

■ 関西大学体育会ボクシング部の歩み

関西大学体育会ボクシング部は昭和4年に関西学生拳闘連盟の結成に並行して、柔道部内に拳闘部を設立し、部活動を開始しました。その後、昭和5年に柔道部より独立し、関西大学拳闘部として活動を開始しました。

同年の第3回日本学生拳闘選手権大会で南条実がウェルター級チャンピオンを獲得して以降、昭和5年から12年にかけて8名の日本チャンピオンを輩出しました。この時代を関西大学ボクシング部の第一次黄金時代と位置付けています。

(本学からのチャンピオン獲得者) ※昭和5年～12年

- ・南条 実 (昭和5年：第3回日本学生拳闘選手権大会ウェルター級)
- ・ " (昭和6年：第6回全日本拳闘選手権大会ウェルター級)
- ・三谷 幾太郎 (昭和6年：第6回全日本拳闘選手権大会バンタム級)
- ・飯野 重則 (昭和8年：第8回全日本学生拳闘選手権大会フェザー級)
- ・安藤 釘三 (昭和9年：第5回全日本学生拳闘選手権大会フライ級)
- ・南 勝太郎 (昭和9年：第5回全日本学生拳闘選手権大会フェザー級)
- ・平岡 三次 (昭和9年：第9回全日本拳闘選手権大会バンタム級)
- ・浜口 大二郎 (昭和12年：第12回全日本拳闘選手権大会フライ級)
- ・稲田 信雄 (昭和12年：第12回全日本拳闘選手権大会フェザー級)

昭和16年に太平洋戦争が始まると、敵国スポーツとして拳闘競技はすべて中止となりましたが、昭和21年に拳闘部が再始動。昭和22年に復活した第1回関西学生ボクシングリーグ戦では3位でスタートしましたが、昭和23年から28年にかけて6年連続優勝を果たし、その後も昭和30年から32年、36年と4回の優勝を重ねました。

この間、関大ボクシング部は4名の日本チャンピオン、2名の東洋チャンピオンを輩出しており、この時代を関大ボクシング部の第二次黄金時代と位置付けています。

<日本チャンピオン>

- ・福本 昌三 (バンタム級)
- ・西尾 俊三 (ライトミドル級、ヘビー級)
- ・牧 昭男 (フライ級)
- ・友崎 良二 (ライト級)

<東洋チャンピオン>

- ・牧 昭男 (フライ級)
- ・西尾 俊三 (ヘビー級)

昭和37年から昭和51年までは1部リーグで活躍していましたが、選手層の薄さ、スポーツ推薦入学制度の廃止等により昭和52年に2部に転落。その後、長い低迷時代が続きました。しかしその中でも選手は頑張り、全日本ボクシング選手権、国体に出場を果たしています。

そして、長い低迷期を耐え、平成15年にスポーツ推薦入学制度が復活すると、有望な選手が入学し、平成17年に2部優勝、そして翌年平成18年に1部に復帰するとともにリーグ優勝を果たしました。その後、今日まで1部で活躍しリーグ優勝は5回を数え、平成25年の第67回全日本大学王座決定戦では拓殖大学と対戦、大接戦となり最後のミドル級で敗れ残念ながら6対5で敗退しましたが、選手たちは本当によく戦い大きな感動を与えてくれました。以降リーグ優勝から遠のいてはいますが、個人戦では国体優勝、全日本ランキング入りの選手を輩出。最近では平成30年ウェルター級・日野魁人が国体準優勝、令和元年ウェルター級・本島翼が全日本ベスト8など、今後更なる活躍が期待されます。

卒業後プロ入りした選手では、平成26年卒業の寺地拳四朗選手が平成29年5月にWBC世界ライトフライ級チャンピオンを獲得し現在連続7度防衛中、同期生の坂晃典選手が平成29年4月に日本フェザー級、令和元年12月に日本スーパーフェザー級チャンピオン獲得と2階級制覇を達成しました。彼らOBの活躍が現役選手への大きな後押しになっています。

■ 2009年～2019年の関西学生ボクシングリーグ戦の戦績

○2009年 (平成21年)	2位	○2015年 (平成27年)	3位
○2010年 (平成22年)	1位	○2016年 (平成28年)	5位
○2011年 (平成23年)	1位	○2017年 (平成29年)	5位
○2012年 (平成24年)	3位	○2018年 (平成30年)	5位
○2013年 (平成25年)	1位	○2019年 (平成31年、令和元年)	5位
○2014年 (平成26年)	2位		

以 上